

## 少し早い土用のウナギ 六義園と旧古河庭園も

本年の新企画です。ウナギ高騰の折り、お財布に優しい「うな重」を賑やかに賞味しました。土用の丑の日はまだ先ですが、季節の先取りをしました。うな重のエネルギーをもとにして、駒込駅近くの名所「六義園」散策をしました。さらに、「春のバラ・フェスティバル 2019」が開催されている古河庭園にも足を延ばし、バラと栄華をしのびました。



両園の入場チケットは、「園結びチケット」という合体したユニークなものでした。

日時：2019年6月5日（水）11：45 集合駒込駅  
参加費：¥3,000（食事代と旧古河庭園入園料含む）  
参加：18名  
解散：午後3時 古河庭園以後自由行動  
リーダー：

順路 JR 駒込駅北口改札集合⇒徒歩⇒  
ウナギ都鳥⇒うな重を賞味⇒徒歩⇒六義園⇒  
散策（つつじ、アジサイ、初夏の緑）⇒徒歩⇒  
古河庭園⇒散策（バラ、初夏の緑）⇒解散

### 老舗 都鳥 うな重

ウナギの老舗「都鳥」で「うな重」を堪能しました。味は「太鼓判」ものでした。客席数が18で、昔懐かしく落ち着いた雰囲気です。ウナギは丁寧な焼きとたれとの絶妙な仕上がり、そして肝吸い付きです。店のおやじの心意気を感じます。当日は貸し切りで、会員だけでしたので、乾杯から始まるいつもの盛り上がり一段とヒートアップしました。



### 六義園 駒込駅からの徒歩圏内

つつじやあじさい、そして初夏の新緑からやや濃い緑に移りつつある庭木の枝ぶりを観賞しました。この大名庭園の名勝の池畔巡りも楽しみました。

この園は、5代徳川綱吉の側用人柳沢吉保が、下屋敷として造営した大名庭園です。1695年（元禄8年）に、2万7千坪の土地に丘を築き、千川上水を引いて池を掘り、回遊式築山泉水庭園を築造しました。

明治初年、三菱財閥の創業者・岩崎弥太郎が六義園を整備しましたので、造園時の面影を残しています。1953年（昭和28年）に特別名勝に指定されました。

初夏の装いが、つつじやあじさいに見事にあらわれていました。中心になる池には色とりどりの鯉がゆったりと泳ぎ、その中に混じって長寿の象徴の亀のんびりと首を出していたのにホッくりさせられました。



### 旧古河庭園 駒込駅からの徒歩圏内

「春のバラ・フェスティバル 2019」を観賞しました。

ここは、1919年に古河財閥の古河虎之助男爵の邸宅として建てられ、当時の上品な様子がしのべられます。現在は国有財産になっていて、東京都が借り受けて一般公開しています。

国の名勝指定で、何回訪れても楽しい庭園です。今回は、色とりどりの大小のバラが咲き誇る時期だったので、伝統の中に華やかさを見せていました。前庭を階段で下がると、一転して池を抱えた和風庭園があり、洋庭園から和庭園への転換が新鮮でした。

